プリカを手で触れることができた。細かい刻線が見事である。墓誌石やコウヤマキの木棺、出土品から新羅・倭の交流関係が雄弁に語っていた。この内17点が国宝であるのも驚きである。

栄山里古墳群にある7号基の武寧王陵が特出しているのは、外来系の墳墓であることで、さらに、墓誌が見つかり年代や名前が確定できることも特出しているとのことだった。

武寧王は、日本書紀によると九州の唐津の加唐（かから）島生まれとされている。王陵の出土品には日本のヒスイの勾玉や棺にコウヤマキが使用されていることから日本と深いつながりが見られる。王と王妃の金製王冠の装飾を含めると108種4千6百点もの遺物が出土されていた。

金海博物館と首露王陵

3日目は、いよいよ九州に帰る日である。フェリーの出発が夕方なので釜山市郊外にある国立金海博物館を巡る時間をたっぷり取ることにした。

金海博物館は加那が鉄の国として繁栄し、日本や中国と活発な物や技術交流があった時代の土器や鉄器を収蔵している。釜山の東の洛東江から西側が古代の小国家群の金官加那であった。4箇所の小国があったとされている地でもある。157年間、任那は「広開土王碑文」に任那加羅と記されている。更に「日本書紀」「三国史記」「宋書」などの歴史的資料から存在が確認できる地でもある。

金官加那を建国したと伝えられている首露王陵と許黄玉王妃稜は金海博物館に隣接して、大成洞古墳群には加那人たちが身につけていたという、水晶、琥珀などの宝石・鉱物やガラスや勾玉、金属のアクセサリーが展示されていた。金銅冠と帯金具、耳飾りや腕輪など、職人たちの洗練された趣と巧みな技術を間近に見られた。首露王陵と許黄玉王妃の物語がシアターやジオラマで解りやすく展示していた。

日本大学校友会奈良県支部活動報告

奈良県支部　西尾　亜樹

令和6年度日本大学校友会奈良県支部総会が5月18日㈯、場所は平城宮跡歴史公園、そして今年度は通信教育部および文理学部、そして大学院生の合同幹事にて開催し、当支部幹事の西尾亜樹が総合司会を務めました。

総会では、大貫進一郎学長、校友会本部より石本浩二次長、大阪支部より黒川和恵支部長、兵庫県支部より中谷昌弘支部長、滋賀県支部より西川美則副支部長、和歌山県支部より林宏幹事長、京都支部より福島尚彦支部長、通信教育部大阪府支部より矢田健一郎幹事を来賓としてお招きし、総勢33名が参加しました。

講演は奈良県総務部知事公室万博推進室室長補佐の和田隼人様に登壇いただきました。「関西万博にむけて」という演題で奈良県としての準備の進めた方や奈良県の農産物PRや観光客誘致など経済効果につながるように準備、プロモーションを進めているといった普段では聞けない話を拝聴することができました。

総会ののち、懇親会会場へ移動し、年代にかかわらず旧交を温めました。

奈良県の校友会活動は他学部との交流はもちろんのこと、いろんなイベント開催も多いので日大OBならではの社会体験ができます。当部の総会は奈良県生駒市にて7月27日に開催予定です。通信教育部の卒業生の輪も大きくなるように校友会活動を広げますのでこの記事をご覧いただいた皆様もぜひ奈良県支部へお問い合わせくださいね。

5年ぶりに集夏祭が復活

9月13日（金）・14日（土）の2日間、「繋」をテーマに5年ぶりに集夏祭が開催されました。

初日には「スマイルキャンパスプロジェクト」～笑顔の輪でつながる日大生×ドーナツ～として「I'm donut？」様より提供されたドーナツを配布し、林真理子理事長や大貫進一郎学長も参加されていました。

2日目は、模擬店の出展や展示、先生と学生の交流会やミュージック研究会などによるLIVEが開催され、LIVEの模様は交流会会場にも生中継されていました。

集夏祭への協賛金寄贈

9月14日㈯通信教育部1号館において、集夏祭実行委員長 若山彩氏に北村会長より集夏祭への協賛金が寄贈されました。

その記念として横断幕を作成していただきました。また、実行委員により、校友会の紹介動画も作成していただきましたので、HPよりご覧ください。

北村会長▶

日本大学大学院　総合社会情報研究科25周年記念シンポジウム開催

2024年9月7日㈯桜門会館において日本大学大学院総合社会情報研究科25周年記念シンポジウム「日本大学通信制大学院への愛を語る」（【主催】日本大学大学院総合社会情報研究科、【協力】GSSC桜門会）が開催されました。

基調講演「学びはいつからでも、どこからでも」

上野　千鶴子　東京大学名誉教授

退任記念講演　泉　龍太郎　元教授

退任記念講演　保坂　敏子　教　授

パネルディスカッション　「日本大学通信制大学院での学び」

林理事長からの祝辞を賜り、124人（オンライン参加者含む）の修了生や在校生のご参加をいただき盛況のうちに終了いたしました。

大学院支部からGSSC桜門会に

会　長：橋本　丈次

副会長：湯浅有希子

副会長：小林亜希子　会計：森川　梢

副会長：小林　嘉之　監査：谷口　友孝

顧問：加藤　孝治

通信教育部校友会大学院支部は令和6年5月21日本部校友会役員会議において、正式に本部の組織である桜門会の承認を得て、GSSC桜門会（Graduate School of Social Cultural Studies）として独立しました。

設立趣意書には「本桜門会は、日本大学校友会正会員で大学院総合社会情報研究科修了生である者、及び大学院総合社会情報研究科の教員または職員であったものとする。」と記載し、学生のみならず、教職員までを含む組織であることに特色があります。

支部から桜門会という形にはなりましたが、通信教育部校友会とは引き続きより良い協力関係として、よろしくお願い致します。

（gssc桜門会 会長　橋本丈次）

札幌・大阪スクーリング

令和6年7月13日㈯

昨年度より始めました地方スクーリングにおける学生間の橋渡し支援事業を今年も開催いたしました。

参加者は多くはありませんでしたが、学生、教職員、学習センター指導員や各支部員との懇親会は意義のあるもので今後も継続していきたいと思います。